

## 指導教員によるコメント

馬場さんは、西洋中世手稿本研究を中心としながらも、もうひとつの柱として中世手稿本研究に資するための史料アーカイブ・史料データベース研究にも力を注いでいます。最近の研究では、西洋中世写本に書かれている文字だけでなく、写本に挿入・配置されている細密画挿絵にも重要な史料価値が見いだされつつあります。写本研究において、異本どうしの比較・系統研究が必要不可欠であるように、写本細密画を比較考察するためには、いわゆる画像情報をデジタルコンテンツ化したデータベースの構築が必要不可欠です。しかしながらこの分野はとりわけ我が国が後れをとっている分野のひとつであり、2009年度グッドデザイン賞を受賞し馬場さん自身も関わった「実業史錦絵絵引」のような史料の持つ画像情報を文字化・デジタルコンテンツ化し検索するシステムの開発が待たれているところです。今回、馬場さんは学生海外派遣プログラムの支援を得て、海外アカデミック・ディスカッションを行ってきました。「実業史錦絵絵引」作成の実績、また慶大を中心とする HUMI プロジェクトでの実績があったおかげもあって、国際的なデジタル・ヒューマニティーズ研究拠点であるロンドン大学キングズ・カレッジで、馬場さんは情報交換と議論を活発に行い、短期間とはいえ十分な成果をあげることができたようです。この分野の研究で成果を上げるために、現場での実績をつむことと人的コネクションを築き活発な情報交換を行うことが重要な意味を持っていますが、本研究支援により貴重書挿絵データベースの国際的拠点とのつながりを持つことができたことは、今後の馬場さんの研究進展に大いに資することになると考えます。

**新井 由紀夫（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授）**